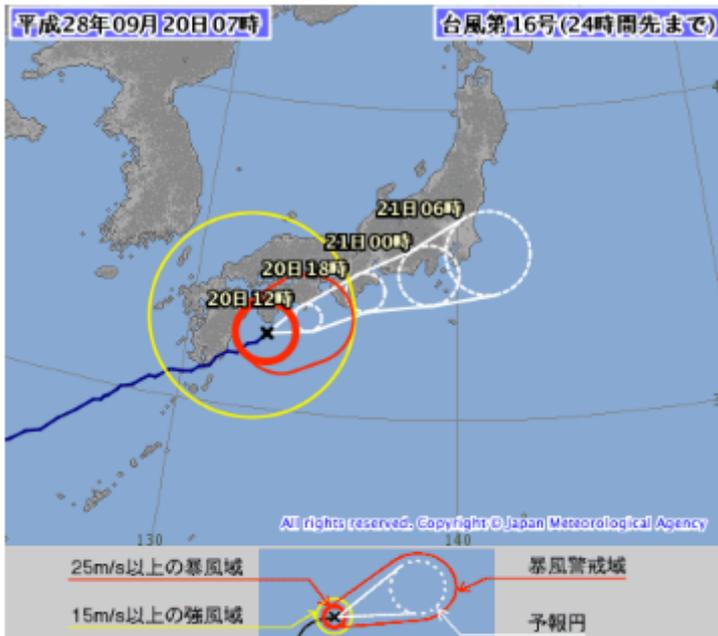


台風16号に関する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課



台風の中心が予報円に入る確率は70%です。

(台風経路図は気象庁ホームページより引用)

台風16号が本県に接近し、風雨が強まる可能性がありますので、農作物等の風雨対策には万全を期してください。

今後の台風の情報に留意し、農作物の管理には十分注意しましょう。

水路等が増水している場合や土砂災害等のおそれがある場合は、危険な場所に消して近づかないでください。

1 水 稲

(1) 事後対策

- ア 浸水・冠水した場合は、早急に排水しましょう。
- イ 倒伏した場合は速やかに株起こしを実施し、穂発芽させないようにしましょう。
なお、株元が損傷している場合には、隣接する株の上に穂をのせる程度としましょう。
- ウ 刈り遅れによる品質低下を防ぐため、ほ場の籾の黄化率（90%程度）を目安として適期刈取に努めましょう。
また、倒伏したところは刈り分けを行いましょう。

2 大 豆

(1) 事後対策

- ア 表面水や明きよの滞水は早急にほ場外に排水しましょう。
- イ 莢が損傷を受けた場合は、降雨により紫斑病や腐敗粒の発生が多くなります。莢に損傷が多い場合は、薬剤散布を行い病害の発生を防止しましょう。

3 そ ば

(1) 事後対策

- ア 地表面に滞水がある場合は、溝切りなどの排水対策を行いましょう。
- イ 倒伏したところをコンバインで刈り取る場合は、刈り幅を狭め、刈り取り部を下げて追い刈り又は横刈りで刈り取ります。刈取部に泥が入らないよう注意しましょう。

4 野菜・花き

(1) 事前対策

ア 共通

- (ア) ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしましょう。水害の恐れがある地帯では強制排水のポンプも準備しましょう。
- (イ) ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検しましょう。
- (ウ) パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょう。
- (エ) パイプハウスや防虫ネット栽培では筋かいを入れ、補強しましょう。
- (オ) 施設では、天窗や扉があおられたり風が吹き込まないように完全に閉めましょう。
- (カ) 雨よけのみのパイプハウス等は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。
- (キ) 収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。
- (ク) は種や定植は、台風通過後に実施しましょう。

イ 野菜

- (ア) 露地の葉菜類や根菜類は、べたがけ資材（不織布等）を支柱を用いて浮き掛けすることにより被害を軽減することができます。その際は、べたがけ資材が風に飛ばされないようしっかりと止めましょう。
- (イ) 露地きゅうりやさやいんげんは、支柱やネットにしっかりと誘引しておきましょう。アスパラガスやピーマンは、フラワーネットと支柱、また、なすは支柱等を点検し、倒伏を防止しましょう。

ウ 花き

露地栽培では、フラワーネットや支柱を点検し、倒伏や曲りを防止しましょう。

(2) 事後対策

ア 共通

- (ア) 停滞水は、明きょなどで速やかに排水しましょう。
- (イ) 倒伏したものは、茎の曲がりを防ぐため速やかに引き起こすとともに、茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行いましょう。
- (ウ) 台風通過後は、吹き返しに注意しながら、施設の換気を図りましょう。

イ 野菜

- (ア) 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の動きを回復させましょう。
- (イ) マルチを行っている畦が冠水した場合、マルチ下の土壌水分が過多となりやすいので、マルチを一時的にはいで畦の乾燥させましょう。
- (ウ) 果菜類で、損傷を受けた果実は早急に摘果（蒔）しましょう。ネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引し直しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除しましょう。
- (エ) 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、直ちに適切な薬剤散布を行いましょう。また、草勢回復のため、液肥のかん注や葉面散布剤の散布を行いましょう。
- (オ) 収穫した野菜は傷みがないか良く確認しながら調製作業を行い、被害品は出荷しないようにしましょう。

(カ) 冠水時間が長く回復の見通しがいい場合は、他作物への転換やまき直しを行います。

ウ 花 き

(ア) キクやリンドウなど露地花きは、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに薬剤散布を行います。また、草勢回復のために液肥の葉面散布を行います。

(イ) ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行います。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢の回復を図ります。

5 果 樹

(1) 事前対策

ア 現在、収穫期に入っている果樹では、強風による落果や傷害が懸念されるので、収穫可能な果実は事前に収穫しましょう。

イ ももせん孔細菌病が発生している地域では、台風の影響で感染が拡大するおそれがあります。降雨の合間を縫い、台風通過前にできる限り秋季防除を実施しましょう。

ウ 立木では、主枝などの大枝が裂けるおそれがあるので、支柱で支え、脱落しないよう枝受け部分を結束します。また、側枝は支柱等で固定すると落果を助長することがあるので、支柱等はずし風になびくようにします。

エ りんごのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強しておきます。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないかどうか確認します。

オ 果樹棚（なし、ぶどう等）等の施設は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行います。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょう。

(2) 事後対策

ア 停滞水している園では、明きょなどにより速やかに排水対策を講じましょう。

イ 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょう。

ウ 葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1～2日後に薬剤散布を実施しましょう。なお、被害後に定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施します。

エ 倒伏した樹は速やかに起こし、土を盛って支柱等で固定しましょう。また、かん水やマルチにより根の乾燥防止に努め、新根の発生を促しましょう。大枝が裂けた場合は、ボルトやカスガイ等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させましょう。

オ 台風通過後は、フェーン現象により一時的に高温となり、乾燥した風により葉焼け等が発生しやすくなります。このような場合はスピードスプレーヤ等で散水し、樹体温を下げるとともに、湿度の維持により被害の軽減を図りましょう。

6 畜産・飼料作物

(1) 事前対策

ア 強風による畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎等の損壊、及び風雨の吹き込みを未然に防止するため、屋根、扉、窓、外壁及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等の応急措置を行います。

イ 開放された飼料の保管場所では、乾草や稲わら等をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにしましょう。

- ウ 堆肥舎への風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しましょう。
- エ あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう対策を行いましょ。
- オ 水はけの悪い草地や飼料畑には明きょを掘削するなど、速やかに排水できるようにしましょ。特に、飼料用イネは品種により収穫適期を迎えているものもあり、さらに飼料用トウモロコシでは収穫期を迎えつつありますので、水はけの悪いほ場は必ず明きょ等の排水対策を行いましょ。

(2) 事後対策

- ア 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょ。
- イ 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し速やかに排水しましょ。
- ウ 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょ。
- エ 収穫期にある飼料用イネや飼料用トウモロコシが倒伏等の被害を受け、回復が期待できない場合には、早急に収穫調製作業を行いましょ。
調製に当たっては、水分調整の実施や、土砂等が混入しないよう収穫作業を行うとともに、乳酸菌製剤等の発酵促進剤を添加して、サイレージの品質向上に努めましょ。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 024(521)7344

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報(生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報)をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>